

平成 2 7 年度

事業報告

平成 2 7 年 4 月 1 日から

平成 2 8 年 3 月 3 1 日まで

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

目 次

I 現況	1
1 事業	1
2 役員等	1
3 評議員	1
4 顧問等	2
5 事務局	2
6 地区組織	2
7 事業資金	3
II 理事会・評議員会等	4
1 理事会	4
2 評議員会	4
III 事業実施の概要	5
1 一般事業	5
2 普及事業	7
3 振興事業	7
4 助成事業	8
IV 登記事項、届出・報告事項	11
V 附属明細書について	12

I 現況

1 事業

本会の定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- (1) 団体の行う吟剣詩舞に関する協力および援助
- (2) 吟剣詩舞に関する研究
- (3) 指導者の養成ならびに研究会および講演会等の開催
- (4) 発表会およびコンクールの開催
- (5) 吟剣詩舞功労者の表彰
- (6) 会誌および図書の刊行
- (7) その他目的を達成するために必要な事業

2 役員等（平成28年3月31日現在）

代表理事

会長 菅原道雄(雪山)

業務執行理事

副会長 山岸明子(吉見芳蘭)、多田 満(正満)、益中 満(鵬山)

専務理事 広渡英治

常任理事 杉浦和子(容楓)、宮田義治(実龍)、前島征夫(昊龍)、松岡 滋(萌洲)、
野中秀偉(秀鳳)、八代正輝(輝霊)、増田忠和(鵬泉)、廣重幸雄(光風)、
日置則男(彩峰)、畑中悟利(景心)

理事

原 真人(青柳芳寿朗)、小野久仁子(光翠扇)、横田 博(岳瑠)、
星野光世(紫虹)、前田嘉弘(霊泉)、志塚 巖(心將)、田中建治(岳藤)、
伊藤征方(晃績)、山路泰弘(泰洲)、佐々木経子(朝鵬)、佐々木貫二(一景)、
三田和氣(梅鳳)、櫻田須賀子(榊原静慧)、渡辺虎雄(櫻虎)、
大橋康身(宗風)、秀平昌己(克泉)、山内直之(正風)、柴崎澄生(澄山)、
時永満男(鶯瞬)

(理事34名)

監事

沼崎 富(星翁)、鈴木邦彦(慧山)、師岡光芳(祐学) (監事3名)

3 評議員（平成28年3月31日現在）

平形 亨(鴻成)、北川寿文(哲水)、多田稔雄(正稔)、小林 久(北鵬)、
田村和夫(天聖月)、森川祐幸(精修)、富田純造(正親)、土方友一(春城)、
椎原哲子(大雅)、三橋陸雄(吟煌)、横山寿宏(寿城)、田邑喜代子(嘉風)、
中尾克久(仁泉)、梶 京子(鳳映)、芳倉清隆(清峰)、勝部昌雄(吼嶺)、

若原將昭(峰洲)、杉山広子(翔鴻)、梅澤正春(昌峰)、河田千春(臈泉)、
 神園弘己(心星)、阿部歆宗(吟鳳)、足立 勝(育城)、小野忠義(雪琇)、
 小山 豊(岳洸)、辻島利隆(鑑靈)、中澤治重(春誠)、佐藤彰徳(翔風)、
 中川裕子(義若)、西山 孝(穂敬)、甕 勝(経風)、松島康夫(南洲)、
 川原宣子(靈宗)、徳田良子(寿風)、森山清文(清明)、小澤武久(田中照風)、
 北村秀男(容山)、勝矢清平(藤河賀久清)、縄本欣秀(東嶺)、
 宮野圭司(鶴誠)、早淵 肇(鯉將)、山田則夫(静將)、後藤ひろみ(月戈)、
 山口世津子(嶺津)、田尻誠行(向山侑吟)、横山真吾(精真)、
 辻 美智子(芳翠)、大西 守(清山)、笠井俊生(栄俊)、平瀬国夫(邦洲)、
 宮本 守(浩風)、山本憲一(兼正)、菊川禎恵(八千穂)、毛塚静子(静精)、
 古庄法男(吟法)、山下勝昭(明穂)、赤木隆彦(隆山)、鈴木 治(永山)、
 浅田愛子(聖風)、熊本佳党(慧山)、黒田利忠(秀月)、森宗満治(呀城)、
 奥脇朝雄(嶽津)、久保田昌代(昌風)、薦田欣吾(南尚)、中谷一壽(将鳳)、
 八文字勝利(剛洲)、早淵淳子(河野鶴聲)、安永利一(江悠)、
 竹内淳雄(岳南)、田村文雄(鵬山)、白男川恭子(洌風)、深浦正孝(精正)、
 濱元義行(邦雪)、下原孝幸(龍劍)、高橋 順(瑞祥)、實成欣次(賀晴)、
 中山勝治(岳襄)、金城富雄(岳周)、渡邊賢次(皇洲)、吉田茂男(魁桜)、
 (評議員 81名)

4 顧問等 (平成28年3月31日現在)

イ. 顧問	18名
ロ. 元老	38名
ハ. 相談役	406名
ニ. 参与	761名

5 事務局 (平成28年3月31日現在)

所在地 東京都港区3-4-10 虎ノ門35森ビル 7階
 職員6名

6 地区組織

本会には51の公認都道府県吟剣詩舞道総連盟(以下「公認総連盟」)があり、それぞれの地区に以下の7つの地区連絡協議会を設けている。()内は公認総連盟名

- (1) 北海道地区連絡協議会(中央、南部、北部、東部、北紋:5地域)
- (2) 東日本地区連絡協議会(茨城、神奈川、東京、埼玉、千葉、群馬、栃木、山梨、新潟、山形、秋田、岩手、福島、宮城、青森:15都県)
- (3) 中部地区連絡協議会(愛知、三重、静岡、岐阜、長野、富山、石川、福井:8県)
- (4) 近畿地区連絡協議会(奈良、滋賀、大阪、京都、兵庫、和歌山:6府県)
- (5) 中国地区連絡協議会(岡山、山口、島根、鳥取、広島:5県)
- (6) 四国地区連絡協議会(高知、愛媛、徳島、香川:4県)

(7) 九州地区連絡協議会（福岡、熊本、大分、佐賀、宮崎、長崎、鹿児島、沖縄：8県）

7 事業資金

本会の事業資金は、各種事業活動による事業収入、公益財団法人 日本財団からの助成金、寄附金並びに資金運用の果実等による。

II 理事会・評議員会等

1 理事会

(1) 第7回理事会 平成27年6月6日開催

開催場所 笹川記念会館4階第1、2会議室（東京都港区）
決議事項 平成26年度事業報告及び決算
報告事項 業務執行状況の報告
出席等 理事出席33名、欠席1名、監事出席2名

(2) 第8回理事会 平成27年6月20日開催

開催場所 笹川記念会館4階第1、2会議室
決議事項 代表理事及び業務執行理事の選任、顧問及び元老、相談役、参与の選任、
2016（平成28）年度日本財団助成申請
報告事項 業務執行状況の報告
出席等 理事出席30名、欠席5名、監事出席2名

(3) 第9回理事会 平成28年3月5日開催

開催場所 笹川記念会館4階第1、2会議室
決議事項 平成28年度事業計画書及び収支予算書の承認
報告事項 業務執行状況の報告
出席等 理事出席34名、欠席1名、監事出席3名

2 評議員会

(1) 第4回評議員会 平成27年6月20日開催

開催場所 笹川記念会館4階第1、2会議室
決議事項 平成26年度事業報告及び決算、理事及び監事の選任、評議員（欠員
分）の選任、常勤役員の報酬
報告事項 第7回理事会での決議事項等
出席等 評議員出席70名、欠席13名

Ⅲ 事業実施の概要

1 一般事業

(1) 組織化促進事業

全国7地区連絡協議会の運営がそれぞれの書記局において行われるとともに、本部において全国地区連絡協議会代表者会議、支部において将来ビジョン会議を開催した。

イ. 各地区連絡協議会の運営

- ◎各地区連絡協議会執行部会議等の開催
- ◎地区内の公認各吟剣詩舞道総連盟の組織運営への協力
- ◎地区内会員の掌握と会員間諸問題の調整
 - ◎平成27年度の全国吟詠コンクール、全国剣詩舞コンクール、全国剣詩舞群舞コンクール及び全国少壮吟詠家審査コンクール地区大会の主催並びに全国決勝及び決選大会の運営主管
 - ◎夏季吟道大学の地区内参加希望者の推薦並びに全国名流吟剣詩舞道大会及び全国吟剣詩舞道大会など振興会行事への協力

ロ. 全国地区連絡協議会代表者会議の開催

◎第1回地区連絡協議会代表者会議

- 日時 平成27年6月6日
- 場所 笹川記念会館4階第5会議室
- 出席者 各地区議長、幹事長、書記長など24名
- 議題 平成27年度事業実施等に関する連絡会議

◎第2回地区連絡協議会代表者会議

- 日時 平成28年3月5日
- 場所 笹川記念会館4階第5会議室
- 出席者 各地区議長、幹事長、書記長など25名
- 議題 平成28年度事業計画等に関する連絡会議

ハ. 将来ビジョン会議の開催

- ◎北海道地区 平成27年10月9日 (北海道)
- ◎東日本地区 平成27年6月8日 (東京都)
- ◎中部地区 平成27年8月23日 (愛知県)
- ◎近畿地区 平成27年7月1日 (大阪府)
- ◎中国地区 平成27年8月22日 (岡山県)
- ◎四国地区 平成27年7月11日 (香川県)
- ◎九州地区 平成27年8月8日 (宮崎県)

(2) 協力援助事業

吟剣詩舞優秀団体の行う行事に対する協力及び援助を行った。

イ. 傘下団体の行う行事に対する協力援助

団体の行う吟剣詩舞に関する行事77件に対し、後援名義の貸与等を行うなど協力し

た。

ロ. 全国高等学校総合文化祭・吟詠剣詩舞部門に対する協力援助

青少年吟詠剣詩舞道育成基金運用の一環として、第39回全国高等学校総合文化祭（2015滋賀びわこ総文）吟詠剣詩舞部門大会の協賛を行うとともに、同大会参加校生徒並びに引率者に対する旅費、宿泊費の援助を行った。

日時 平成27年8月1日
場所 野洲文化ホール（滋賀県野洲市）
出演者 148校、732名
補助金 1,999,660円

ハ. 青少年育成推進のための協力援助

◎青少年大会開催に対する協力援助

青少年吟詠剣詩舞道育成基金運用の一環として、以下の青少年対象の大会等を開催する公認総連盟に対し協力援助金（各100,000円）の交付等を行った。

第26回岡山県吟詠剣詩舞青少年大会
第36回栃木県高等学校吟詠剣詩舞発表大会等
第57回愛媛県青少年吟詠剣詩舞道大会

計 300,000円

◎青少年育成推進のための協力援助

青少年吟詠剣詩舞道育成基金の運用の一環として、奨励のための青少年の表彰に関し、本年度コンクールの幼年、少年、青年の部上位入賞者に副賞の奨励金（優勝30,000円、二位20,000円、三位10,000円）の授与を行った。

平成27年度全国吟詠コンクール決勝大会奨励金 180,000円
平成27年度全国剣詩舞コンクール決勝大会奨励金 360,000円
計 540,000円

(3) 研究会開催事業

吟詠剣詩舞に関する専門委員会の開催を行った。

◎第31回吟詠専門委員会

日時 平成27年8月28日
場所 成田東武ホテルエアポート2階会議室（千葉県成田市）
出席者 吟詠専門委員8名ほか、オブザーバー4名

◎第42回剣詩舞専門委員会

日時 平成27年5月5日
場所 高知県立県民文化ホール（高知県高知市）
出席者 剣詩舞専門委員12名

◎第43回剣詩舞専門委員会

日時 平成27年9月19日

場所 笹川記念会館4階第5会議室
出席者 剣詩舞専門委員14名ほか、オブザーバー3名

(4) 功労者表彰事業

イ. 平成27年度吟剣詩舞大賞受賞者の選考並びに表彰を行った。

平成27年8月28日に第29回吟剣詩舞大賞選考委員会を開催し、吟剣詩舞功
労賞に次の6氏を選考し、第47回全国吟剣詩舞道大会の式典において表彰した。

吟剣詩舞功労賞	田中 岳藤	吟詠家・長崎県
〃	安倍 秀風	剣詩舞家・京都府
〃	久保田 信風	吟詠家・岐阜県
〃	石川 春洋	吟詠家・東京都
〃	藤岡 鶴伯	吟詠家・広島県
〃	三原 瑞顕	吟詠家・徳島県

2 普及事業

(1) 海外普及事業

吟剣詩舞の国際親善交流事業を協賛した。

(2) 広報活動事業

吟剣詩舞の周知宣伝のための広報活動を行った。

イ. 日本吟剣詩舞振興会Webサイトの運用促進を図った。

ロ. 吟剣詩舞の広報を図るために、ムックの販売促進を行った。

ハ. 新聞、雑誌などへの広報活動を行った。

3 振興事業

(1) 発表会開催事業

吟剣詩舞普及のための発表会を開催した。

イ. 秋篠宮妃総裁恩賜財団母子愛育会奉賛・平成27年度全国名流吟剣詩舞道大会の
開催

日時 平成27年5月5日

場所 高知県立県民文化ホール（高知県高知市）

来場者 1,500名

参加者数 497名

後援 文化庁、高知県、高知市教育委員会、NHKほか報道各社、高知県文化
協会、高知市文化協会

奉賛等 恩賜財団母子愛育会（奉賛金1,700,000円）

(2) 吟詠教本発行事業

吟詠統一教本(既刊図書)を作成配布した。()内は前年度実績

・吟剣詩舞道漢詩集(絶句編)解説書	……………	2 1 0部(1 5 5部)
・吟剣詩舞道漢詩集(律詩・古詩編)解説書	……………	1 1 0部(1 2 5部)
・吟剣詩舞道漢詩集(続絶句編)解説書	……………	1 3 1部(2 5 6部)
・吟剣詩舞道アクセント付漢詩集(絶句編)	……………	6 0 5部(6 1 7部)
・吟剣詩舞道アクセント付漢詩集(律詩・古詩編)	……………	2 7 2部(3 1 3部)
・吟剣詩舞道アクセント付漢詩集(続絶句編)	……………	5 1 1部(6 7 5部)
・幼少年向けテキスト『はじめての吟詠』	……………	1 5 4部(3 1 5部)

(3) 会報発行事業

吟剣詩舞に関する広報並びに情報誌として、月刊「吟と舞」を発行した。

平成28年3月31日現在の有料発行部数は、8,762部(昨年度末8,538部)である。

(4) 教材頒布事業

吟剣詩舞道吟詠集(CD、カセットテープ)の作成配布及び吟剣詩舞道伴奏集(同)の監修指定など、吟剣詩舞に関する教材の製作頒布並びに既刊教材の頒布促進を行った。

()内は前年度実績

教材としての吟詠集の製作頒布数

・平成28年度吟剣詩舞道吟詠集CD	……………	4, 2 6 9本(4, 6 8 4本)
・平成28年度吟剣詩舞道吟詠集テープ	……………	7 6 8本(9 8 7本)

教材としての伴奏集の製作監修並びに振興会指定数

・吟剣詩舞道伴奏集CDの指定数	……………	1, 0 0 3本(9 9 8本)
・吟剣詩舞道伴奏集テープの指定数	……………	5 6本(6 3本)
・続・吟剣詩舞道伴奏集CDの指定数	……………	5 9 6本(8 3 0本)
・続・吟剣詩舞道伴奏集テープの指定数	……………	2 1本(2 5本)

4 助成事業(日本財団助成事業)

(1) 吟剣詩舞普及振興のための全国吟剣詩舞道大会の開催

イ. 事業の実施内容

「第47回全国吟剣詩舞道大会」の実施

- (1) 日時：平成27年11月7日～8日
- (2) 場所：日本武道館(東京都千代田区)
- (3) 入場者数：10,000名(延2日間)
- (4) 内容

- ①吟剣詩舞特別企画構成番組「兜」の発表
- ②全国吟詠合吟コンクールの開催
- ③全国コンクール優勝者演舞の発表
- ④高校生代表・幼少年2地区代表・全国地区連絡協議会推薦吟剣詩舞の発表

ロ. 事業目標の達成状況

吟剣詩舞を一般の方々やマスコミに周知することを目的に、ニュースリリースやマスコミ関係者への働きかけを積極的に実施。在京・地方のマスコミ関係者が多数来場するなど、大きな反響を呼んだ。また月刊誌「吟と舞」の特別増刊号として武道館大会特集を制作した。大会初日は、一流の吟剣詩舞家による特別企画構成番組を披露するなど一般へのアピールに努める一方、2日目は斯界関係者の総力を挙げた吟詠合吟コンクールや地区連絡協議会による多様な番組を提供した。また夏の全国高校文化祭で最優秀と認定された高校生代表による剣詩舞や幼少年による吟剣詩舞、優秀な若手剣詩舞家から構成された剣詩舞スーパーチームが出場するなど、年代を越えた層の厚さを周知することができた。

ハ. 事業費総額及び助成金等

事業費総額	80,237,087円
助成金	58,400,000円
自己負担分	21,837,087円

(2) 吟剣詩舞普及振興のためのコンクールの開催

イ. 事業の実施内容

(1) 開催日

- ① 平成27年度全国剣詩舞コンクール決勝大会 平成27年9月20日
- ② 平成27年度全国吟詠コンクール決勝大会 平成27年9月21日
- ③ 平成27年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会 平成28年2月7日
- ④ 第44回全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会 平成28年3月6日

(2) 場所

- ① 全国剣詩舞コンクール決勝大会 笹川記念会館国際ホール
- ② 全国吟詠コンクール決勝大会 ”
- ③ 全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会 ”
- ④ 全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会 ”

(3) 参加者

- ① 全国剣詩舞コンクール(参加者総数約8,500人)
- ② 全国吟詠コンクール(参加者総数約18,000人)
- ③ 全国剣詩舞群舞コンクール(参加者総数約5,500人)
- ④ 全国少壮吟詠家審査コンクール(参加者総数約5,500人)

(4) 内容

各コンクールは、年齢により剣詩舞コンクール及び吟詠コンクール共に6部門に分けて実施し、日頃の吟剣詩舞道精進の成果を競う場とし、優れた吟剣詩舞道者の発掘を行った。少壮コンクールは、35歳から55歳までの吟詠指導者の研鑽の場とし、優れた吟詠家を選出する公の機関とすることができた。

ロ. 事業目標の達成状況

各コンクールそれぞれボランティアによる大会役員に支えられ県単位の第一次予選、全国7地区単位の第二次予選及び全国大会として決勝、決選大会を行ったものである。近年の少子化等に伴い会員の減少が特に顕著にあらわれているが、コンクールを通じて幼少年の育成に力をいれ、確実に出場者を確保すると

もに、これを更に推し進めることができた。また、少壮コンクールにおいては、少壮吟士としての称号を付与するための厳しい審査基準及び年齢制限を設け、吟詠指導者の公の選出機関としての役目を引き続き果たすことができた。

八. 事業費総額及び助成金等

事業費総額	21,935,719円
助成金	16,640,000円
自己負担分	5,295,719円

(3) 吟剣詩舞普及振興のための講習会の開催

イ. 事業の実施内容

(1) 日時

- ① 夏季吟道大学(以下「吟道大学」)……………平成27年7月18日(土)～19日(日)
- ② 少壮吟士夏季吟詠特別研修会(以下「少壮研修会」)…平成27年8月29日(土)～30日(日)

(2) 場所

- ① 吟道大学……………成田東武ホテルエアポート
- ② 少壮研修会……………成田東武ホテルエアポート

(3) 参加者

- ① 吟道大学……………127名
- ② 少壮研修会……………62名

(4) 内容

吟道大学は全国7地区連絡協議会から選ばれた指導者を対象に、少壮研修会は少壮吟士候補及び少壮吟士称号取得者を対象として、吟剣詩舞の幹部指導者の養成研修会として開催した。

ロ. 事業目標の達成状況

全国から選ばれた吟詠の指導者を受講対象者とした吟道大学、少壮吟士称号保持者の研修を目的とした少壮研修会を開催し、吟剣詩舞の現状の把握と一層の芸術的向上を図るとともに、普及振興のための研究討議を行い、全国的レベルでの向上を図ることができた。

八. 事業費総額及び助成金等

事業費総額	9,828,200円
助成金	6,510,000円
自己負担分	3,318,200円

IV 登記事項、届出・報告事項

1 登記事項

平成27年9月1日

・評議員、理事変更

平成28年2月5日

・評議員変更

平成28年3月11日

・評議員変更

2 届出・報告事項

平成27年6月30日

・事業報告等の提出（内閣府）

平成27年9月28日

・変更の届出（内閣府）

平成28年3月28日

・事業計画書等の届出（内閣府）

平成28年3月30日

・変更の届出（内閣府）

V 附属明細書について

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定される附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成28年6月
公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会